



ウキ止め
道糸：サンライン
ブラックストリーム
マークX 1.75~1.5号

半円シモリ
ウキ：釣研
ジャイロ-N
B・G2・0

トーナメント
ゼクトG3・0・0

種小サルカン

ガン玉
付けたり外したり

ハリ：がまかつ
競技くわせ5~7号

ロッド：がま磯
アテンダーII
1.25-5.3m

リール：DAIWA
トーナメント
ISO-Z競技
2500LBD

当日の仕掛け



「大型尾長?のバラシはあったけど十分に楽しめました」野間さんの本音!



「大型尾長?のバラシはあったけど十分に楽しめました」野間さんの本音!

あろう。すぐにこの潮も消えたが、近くに潜む尾長グレ、不意のあたりに対処するためにこのままの太仕掛けで臨み口太を1尾追加。そして10時の場所交代を迎えた。

野間氏が入っていたポイントAは、サラシがきつく潮も入らず半1本半まで探るも魚影が全くない状態であったとの事。そのポイントへ私が入ったがその状況は変わ

らず時間だけが過ぎていった。一方、野間氏が入ったポイントBは、交代と同時に、満潮前で足を波がさらうようになり前に出ることができず、右に流れていた上げ潮も止まって左流れとなり早くも下げ潮が入ってきた。

野間氏に青物が急襲!

先端より少し中に入ったCポイントで野間氏は竿を出していたがあたりが遠いようである。突然、野間氏の竿が曲がった。弧を描き魚は右に左に走り回りながら上がってきたのはブリだった。その後にもブリをもう1尾追加し、交代後2時間で魚信があったのは、この2回だけだったようだ。再度釣り座交代。南からの向か

い風がますます強くなり当て潮となった。潮位が下がったので再び先端のポイントBに入り、風対策で道糸を1.5号、ウキを釣研「ジャイロB」に替え、竿1本半のタナで磯際を狙って2尾追加したところで納竿とした。

今回、ツキがなかった野間氏は、風裏のポイントDにて短時間で良型3尾を仕留めていたのは流石。

今回、待望の50UPはでなかったものの二桁の釣果で満足のいく釣りであった。

最後に、自らも釣りをされる「松風」の船長さん、見回りにも良く来て下さり、的確なアドバイスされるなど人気の程も頷ける。

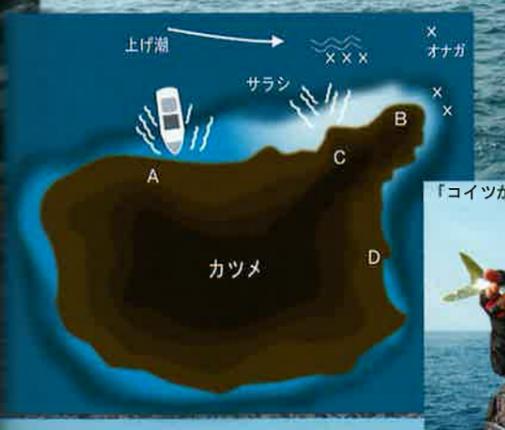
皆様もデカ判グロを目指し、絶好調の南薩久志へチャレンジしてみてくださいは!

くわせオキアミV9(徳用)ダブルバックは「グレパウダーV9」などと同様に遠投時や深ダナ狙いにも最適

マキエスペースはマルキューの「グレパワーV9 徳用」。クロの集魚効果と潮筋をアングラーに的確に伝えてくれる。

を少量づつ注ぎながら攪拌していく。狙いポイントにて海水量と攪拌の度合いを調整する野間さん。

アングラーに絶大な人気を誇る瀬渡船『松風』
TEL: 090-5388-3498



払い出すサラシの先端から沖に流すと強烈なあたりが野間さんの竿をヒタクッタ。



「コイツがいるとクロは…」野間さんの弁。



足下から払い出すサラシの先端に仕掛けを委ねて送り込んでいくと、沖合い40m付近の潮筋のヨレ周りでヒットしてきた本日最大のクチブト42cm。

時間は8時、釣りスタート。今日は節分、撒き餌しながら「クロは内、外道魚は外」と念じながら撒くのは釣り人の性である。まずは、足元のサラシの先端へ撒き餌を。その先に仕掛けを投入するとい感じいで出て行く。

タナは2ヒロ半から始め、右方向へ流れる上げ潮とのヨレでウキがじわりとシモる。付け餌を取らないのでタナを3ヒロにして3

投目で待望のあたりを捉えた。すかさず合わせを入れるとなんとスッポ抜け、食いが浅い。再度同じポイントへ流すとまたあたりが。 **ハリ号数を落とし小刻みな誘いをかける**

今度は、じっくりとウキが見えなくなるまで待つアワセを入れ、確実に竿に乗ってきた。心地良いクロの引きである、35cm程

のクロであった。同じ型を2、3枚追加したところで、またまた食いが渋くなってきた。ウキを少し抑え込むだけですぐ付け餌を離す状態となったため、ハリを「競技くわせ5号」へ落とし、仕掛けを張り気味にしながらハリスを直線になるように意識。仕掛けが馴染むと道糸をゆっくり10~20cm程引き戻して誘いを掛けながら流す。すると穂先にコンコンとか細かいア

タリ。じっくり食わせてアワセを入れると本日最大の42cmのクチブトがヒットした。このパターンでさらに3枚追加することができた。そうこうしていると、潮がサラシ際から沖へ出るようになったため、そのまま成り行きに任せて40m程流すと、沖の潮目でウキがゆっくりと引き込まれていった。アワセを入れると猛烈な引き、暫く竿を立てやり取りしていたが残念

ながらラインブレイク、仕掛けを回収するとチモトからスパッと切れていた、尾長である。すぐにハリスを2号に替えハリを「競技くわせ7号」に替えた。

仕掛けを投入し、同じパターンで流れて沖の潮目で食わした。こゝんでは慎重に糸を出し往しながらゲットしたのは、40cm程の尾長であった。バラした尾長は今の重量感からすると50~60cm程あったで